

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と人間力を育み、愛校心にあふれ、地域に愛される学校をめざす。

1. 志・夢・確かな学力を獲得させ、社会で自信を持って活躍する人材を育てる。
2. 学校行事、部活動を充実させ、人間力を培い、愛校心を育てる。
3. 人権教育の推進と規範意識の向上により、豊かな人格を育む。

2 中期的目標

1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成

(1) 生徒一人ひとりが自信を持てる基礎学力の定着と活用型学力の獲得をめざす。

ア 進路実現に対応可能な基礎学力を向上させるため、今後求められる活用型学力の獲得のため対話的でより深い学びを目標とした授業を行う。

※ 学校教育自己診断の「授業のわかりやすさ」の項目において、2020年度までに75%の肯定率をめざす。(H29年度：69.4%)

※ 校内における会議等の無駄を極力省き、教員の教材研究の時間を確保する。

イ コミュニケーション能力の育成と活用型学力を育成する。また、ICT機器の授業における効果的活用を促進する。

※ 各講座での主に生徒によるプレゼンテーションの導入を促進し、2020年度まで実施授業の比率を上昇させ続ける。

ウ 英語専門コースでは、より高いレベルでの4技能習得のため、これまでの実践に加え特にスピーキングの指導を積極的に行う。

※ 英語コースにおける「授業満足度」の継続的上昇(2020年度に3.5)

エ 放課後学習や週末課題の活用により、家庭での学習習慣を定着させる。

※ 2年生での家庭学習の平均時間を、2020年度までに1時間以上とする。

オ 英語の資格検定等、各種検定試験を利用し資格取得によって生徒の自己肯定感を高める。

※ 英語の資格検定では平成30年度には第1学年の60%以上の生徒の受検をめざす。

カ 国際交流活動で英語やコミュニケーション能力、国際感覚等を高める。

※ 外国からのスタディツアーを受け入れ、希望者による短期派遣を実施する。その他、地域の外部団体との連携による国際交流にも積極的に参加する。

(2) 大学入試改革に対応した「確かな学力」の育成と評価を研究し、新制度入試での生徒の希望進路実現に備える。

ア 新制度で大学入試が行われる2020年以降においても進路保障が確実に実行できるよう、高大接続改革の状況をリサーチしながら、新制度に対応する「確かな学力」の育成方針・方法と評価方法について研究と実践を行う。

※ 「2020年問題検討委員会」(高大接続改革に関わる校内プロジェクトチーム(平成29年立ち上げ))による研究と研修(年2回以上の研修)

※ 「確かな学力」を評価するための観点別評価の導入(平成30年度から本格実施)

2 生徒の自信を育む「生徒指導」の展開

(1) 高校生活の基本となる生徒の規範意識を醸成する。

ア 遅刻指導、服装指導、授業規律を徹底することにより、規範意識を育成し自尊感情と自信を高める。

※ 遅刻数は、平成27年度に約900件となり平成29年度には800件を早期達成したため、これを維持・さらに減少に努める。

※ 学校教育自己診断(生徒)での「学校のルールを守ろうとしている」の肯定率95%以上を維持する。

(2) 教育相談・支援教育・規律指導が三位一体となった生徒指導を行なうことで安全で安心な学習環境を維持し、生徒の健全な成長を支援する。

ア 何らかの悩みや不安のある生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談体制の充実を図り関係機関とも連携する。

※ 学校教育自己診断(生徒)の教育相談に関する項目の肯定率を2020年度までに60%以上にする。

※ 教育相談担当者等によるケース検討を年間20回以上行なう。(毎年)

※ 生徒の障がいや特性の理解を深め、適切な「合理的配慮」と指導・評価が行なえるよう、事例検討を含めた研修を行なう。(毎年)

(3) 来校者や地域の方へのあいさつの励行による、社会性と自信の育成。

ア 「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行なう。

※ 学校教育自己診断(生徒)の挨拶に関する項目の肯定率を2020年度までに80%以上にする。

3 「生きる力」を育成する学校行事・部活動の充実と地域連携

(1) 伝統ある学校行事・部活動により主体性や協調性を育成し愛校心も育む。

ア 学年進行により生徒が主体となるよう学校行事の企画・運営を工夫し、生徒に自信をつけさせ、自己有用感や自己肯定感を高める。

※ 学校行事の満足度は、27年度88%、28、29年度は88.9%と上昇しており、2019年度には90%をめざす。

イ 部活動運営の主体的活動を通じて、社会性やリーダーシップ、組織運営力を身につけ、逞しい人間力を育成する。

※ 部活動入部率は、26年度の1年生当初が約77%、27年度65%、28年度68%、29年度70%であり、安定して70%以上となるようにする。

ウ 中学生の体験部活動や合同練習等の交流を推進する。

(2) 地域行事等への積極的な参加や広報活動により、地域の信頼を高め自尊感情や自己有用感を育む。

ア 地域コミュニティの行事や近隣の企業等のイベント等に参加し、「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。

イ 広報チームを核に生徒、教職員が一体となって「面倒見のよい津田校」を広報し、地域からの信頼度を高める。

ウ 独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」となる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成31年1月実施分]				学校運営協議会からの意見
主な項目における結果 (%)				<p>【第1回7月9日実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断において「授業がわかりやすい」の項目があるが、授業を受けていて聴いているだけでよく理解できるから「わかりやすい」として評価していいのだろうか。生徒の主体性を重視した時、もっと別の観点について努力、評価すべきなのではないか。となると、そもそも「授業がわかりやすい」という評価基準がふさわしいものなのかという議論が必要である。 地域からの評価として、津田校は「落ち着いている」という印象が大きい。中学生は「自由な雰囲気」よりも「落ち着いた雰囲気」を望んでいる。日常的な生徒の姿が、どんな広報活動よりも雄弁に語るものである。 評価指標で95%以上を目標にしている項目があるが、実際90%近くになると十分達成できていると判断できるし、それ以上数値を上げることにあまり意味がないのではないかと。 なぜ英語を学ぶべきなのか、モチベーションを高めるような取り組みを。 <p>【第2回11月15日実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実力テストの分析で回を重ねると、学年の移行にしたがって成績がどう推移したか、どこがどう伸びたのか各科目できっちり分析されている。数値として客観的に判断できるのでわかりやすい。数学の伸びが良くない点が気になるので、科目の特性上難しいとは思いますが、なんらかの手立てを打つ必要がある。 進学が学校の評価を高めてきた。2020年の改革に絡めて、ここ5年のうちに次の手を打つべきである。今後さらなる授業改革が必要であるが、同時に家庭学習の大切さを再確認すべきだ。 避難訓練等の自然災害に対する取り組みはできるだけ早い時期（例えば4月中）に行うべきである。 遅刻数が年間400件と、非常に少ないがパンフレットなどで有効にアピールできていないのではないかと。 <p>【第3回2月26日実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の規範意識の高さは評価できる。入試改革に対する検討もきっちりされているが、取り組み内容をどう発信していくかが重要である。 部活動の活動時間が制限される中で、「クラブが盛ん」という指標ではなく、自分にとって充実しているか、時間の枠内でどう満足しているか等、満足度を違った方向で測る必要がある。 働き方改革の中で、何処にどう時間を有効に使うかが問われている。一人の先生の方ではなく関係プレーが要求されると思う。 「授業がわかりやすい」という指標は、「ペアワークは活かしているか」等、具体的な内容を問うような指標に変えていく必要がある。 「学力の形」が変化している。知識を伝えるのではなく、アクティブラーニングに現れているように、「わかったことを利用して共有し、自分の意見を発信できる」ことが要求されている。 「探究」による課題研究がまさにこれからの「学力の形」を实践する「社会で求められる力」である。 企業でも同じで、職員研修の効果は大きいと思う。
内 容	生徒	保護者	教員	
学校への満足度(学校は楽しい、通わせてよかった。)	75.6	86.6	65.4	
授業への評価(わかりやすい、学力がのびされている)	72.8	76.5	69.2	
進路指導に対する評価	86.3	75.5	80.7	
生徒指導に対する評価	95.9	96.1	76.9	
学校行事、部活動に対する評価	82.1	82.3	73.1	
学習環境が整っている。	70.0	82.0	69.2	
<p>【分析】</p> <p>「学校へ行くのが楽しい」「授業がわかりやすい」が昨年度より3ポイント上昇しているが生徒の主体的な取り組みの観点を考えるとき、「わかりやすい」の評価基準が果たしてふさわしいのか疑問である。今後評価基準も含めて、生徒の主体的・対話的な取り組みを進めるような授業改善に取り組んでいく必要がある。</p> <p>「学校行事、部活動に対する評価」が昨年比で2ポイント下回っている。行事については生徒のニーズの変化に対応していくことが望まれる。部活動については、部活動の在り方の指針を受けて活動時間に制限を設けたことが少なからず影響しているように思われる</p> <p>「学習環境が整っている」が昨年から横ばい状態であるが学年別にみると1年生66.7%、2年生70.9%、3年生73.7%である。授業中の雰囲気は全学年落ち着いた雰囲気を形成しているが、設備面でトイレの改修や電子黒板等の設備を要求する声もあり、特に1年生においては期待して入学したが設備が揃っていないことへの失望感がうかがえる。</p> <p>「挨拶をする」「遅刻をしないように心がける」「学校のルールは守る」はいずれも昨年を上回っている。年々学校全体の規範意識は高まっている。</p>				

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成	<p>(1) 基礎学力の定着と活用型学力</p> <p>ア 基礎学力の向上と進路指導</p> <p>イ 主体的・対話的学びの実践</p> <p>ウ 英語専門コースの再編</p> <p>エ 家庭学習の定着</p> <p>オ 各種検定試験への取組み</p> <p>カ 国際交流活動の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「主体的な学びのある授業」のための授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験年数の少ない教員とベテラン教員との懇談会を実施し授業等における know-How の継承に努める。 ・今後求められる学力とそのための授業変革について生徒に周知 ・評価に関する教務内規の見直し ・教育産業の実力テスト継続活用による基礎学力充実と進路実現のための分析と指導、保護者への情報提供 ・ペーパーレス会議等の実施により教材研究の時間を確保 <p>イ・主体的・対話的な学びのある授業の実施とICT機器の活用研究</p> <p>ウ・英語専門コース検討委員会の決定に従ってコースの再編を実行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4技能をバランスよく指導する。特にスピーキング力の養成に努める。 <p>エ・放課後学習と週末課題の組織的取組み</p> <p>オ・英語検定等の対策指導を行い意識を高める</p> <p>カ・海外からの教育旅行を受け入れ異文化交流を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国派遣事業の継続実施。 	<p>(1)</p> <p>ア・自己診断「授業はわかりやすい」70%以上 [H29: 69.4%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会は年3回以上実施。 ・成績の出し方について、生徒に周知する。 ・教務内規見直しに関する会合の実施と結果の報告。 ・実力テスト結果における下位区分者を入学時と比較して25%減少 [H29:20.8%減] ・1年保護者対象の成績分析説明会開催(年1回) ・進路実現に関する満足度85%(H29:81%) ・ペーパーレス等により教員の負担を軽減した会議を年間2回実施。 <p>イ・主体的・対話的な学びのある授業の実施率の増加 [H29:34.1%]</p> <p>ウ・英語専門コース選択者の増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語専門コースの授業アンケート「授業満足度」3.2以上 [H29:3.2] ・スピーキングテストの導入(年1回) <p>エ・週末課題等の提出率9割以上 [H29:10割達成]</p> <p>オ・年間の英語資格検定等の受験者の増加。(第1学年60%以上の受験)</p> <p>カ・教育旅行1校受入れ・米国派遣10名以上参加 [H29:13名]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「授業はわかりやすい」との回答は72.8%で昨年より3ポイント上がった。生徒の授業への要求水準は高く、主体的な学びを実践する授業改善の取組みが必須である(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会(熱打会)4回実施(◎) ・各教科担当が年度当初のオリエンテーションにて説明(○) ・教務部内において内規の見直し検討会を2回実施(○) ・下位区分者は20.1%減少。昨年並みの数値を維持したが、目標には到達できなかった。(△) ・1年生保護者対象成績分析会は年3回実施。(◎) ・進路実現に関する満足度は86.3%で目標には到達しているが、更なる生徒個々への綿密かつ的確な指導が望まれる(○) ・職員会議資料の様式を揃え両面印刷などを常時実施した。(○) <p>イ・主体的・対話的な授業、いわゆるアクティブラーニングを取り入れた授業の全体に対する割合は40%で昨年から上昇。(◎)</p> <p>ウ・英語コース選択者数は13名で昨年から横ばい。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語専門コースの授業満足度は昨年とほぼ横ばいの3.1であった。(○) ・1年生全員にGTECを受験させ、スピーキングテストを行った。(◎) <p>エ・週末課題の提出率は昨年に引き続き100%を達成。(◎)</p> <p>オ・1年生全員にGTECを受験させた。(◎)</p> <p>カ・10月にオーストラリア、ローガン市民管弦楽団(50名)との交流を実施。英語の授業に入り込み、グループ単位で交流を積極的に行い、吹奏楽部との合同練習を行った。米国短期語学研修派遣に10名の生徒が参加。(◎)</p>
	<p>(2) 高大接続改革への対応準備</p> <p>ア 「確かな学力」育成と評価の研究</p>	<p>(2)</p> <p>ア・「2020年問題検討委員会」を中心とした「確かな学力」の育成方針・方法と評価方法の研究と研修</p>	<p>(2)</p> <p>ア・「2020年問題検討委員会」による高大接続改革に関する研修を年2回行う。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・「2020年問題検討委員会」が職員会議等を利用し、研修の形式で文科省の動きなどの情報提供や他校視察などの様子を2回以上報告。(◎)</p>

府立枚方津田高等学校

<p style="text-align: center;">2 生徒の自信を育む「生徒指導」の展開</p>	<p>(1) 規範意識の醸成 ア 遅刻と服装指導、授業規律の徹底</p> <p>イ 人権教育の推進</p> <p>(2) 教育相談・支援教育・規律指導が三位一体となった生徒指導 ア 教育相談の充実と関係機関連携</p> <p>(3) あいさつの励行 ア あいさつ運動の展開</p>	<p>(1) ア・遅刻指導・服装指導の継続実施。</p> <p>・適切な授業規律指導により落ち着いた学習の場を維持する。</p> <p>イ・特別活動等で人権尊重意識醸成の取組みを行う。</p> <p>(2) ア・教育相談・支援教育の観点を加味した適切な規律指導により生徒の規範意識を醸成する。 ・教育相談・支援教育の充実を図り、年間を通じて個別ケース検討を行ない、個に応じた合理的配慮や支援を行なう。</p> <p>・必要に応じて中学校・福祉・司法・行政などの関係機関の協力を得る。 ・教育相談・支援教育に関する事例検討等も含めた研修を実施し理解と力量を高める。</p> <p>(3) ア・「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行なう。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻数 500 件未満の維持 [H29:477 件]</p> <p>・自己診断(生徒)の「落ち着いた学習環境」への肯定率 70%を維持 [H29:70.3%]</p> <p>イ・人権に関する講演の開催 (1回)</p> <p>(2) ア・自己診断(生徒)での規範意識の肯定率 95% [H29:93.6%] ・教育相談・支援教育に関するケース検討 (20 回以上)</p> <p>・関係機関連携を必要に応じた回数確実に行う。(昨年延べ 15 回) ・教育相談・支援教育に関する研修実施 (1 回)</p> <p>・自己診断での教育相談の肯定率上昇(1 ポイント増) [H29:61.1%]</p> <p>(3) ア・自己診断の「あいさつをしている」85%以上 [H29:85.1%] ・早朝のあいさつ運動実施 (年 30 日以上)</p>	<p>(1) ア・遅刻数は 485 で昨年並みである。教員による地道な取り組みの成果がでている。 (◎) ・「落ち着いた学習環境」への肯定率は 70.0%でほぼ横ばいであるが、トイレの回収や電子黒板等の施設設備に関する要求は高い。 (○)</p> <p>イ・人権に関する講演会を 1 度開催。さらに今年の芸術鑑賞(演劇)は人権的な内容のものであった。生徒の人権についての意識向上は昨年より 4 ポイント上昇。 (H29:79.5→H30:84.1) (◎)</p> <p>(2) ア・「規範意識」の肯定率は 96.4%で 2 ポイント上昇。 (◎) ・教育相談・支援教育に関するケース検討 22 回生徒に寄り添う指導の一環 (◎) ・関係機関との連携は、子ども家庭センターを中心のべ 16 回。(◎) ・教育相談・支援教育に関する研修を 1 回実施した。 (○) ・校内で相談できる先生がいるとの回答は 2 ポイント上昇して 63.5%になったが、まだまだ納得できる数値ではない。(◎)</p> <p>(3) ア・「挨拶をしている」と答えた生徒が 90.8% (◎)。 ・早朝のあいさつ運動 32 日実施。(◎)</p>
--	--	---	--	--

府立枚方津田高等学校

<p>3 「生きる力」を育成する学校行事・部活動の充実と地域連携</p>	<p>(1) 行事や部活動による主体性・協働性と愛校心の育成 ア 生徒主体の行事運営 イ 生徒主体の部活動運営</p> <p>ウ 中学生体験入部や交流の推進</p> <p>(2) 地域行事等への参加と広報活動 ア 地域行事等への参加 イ 生徒・教職員一体の広報活動</p> <p>ウ 学校説明会と中学校訪問</p>	<p>(1) ア・生徒が主体となるよう学校行事の企画・運営を工夫し、生徒の自信と自己有用感を育む、同時に HP 等を利用し保護者への広報を強化する。</p> <p>イ・部活動での生徒の主体的活動を支え、社会性やリーダーシップ、組織運営力など「生きる力」を育成する。</p> <p>ウ・中学生対象の「部活動体験会」や合同練習等の交流を推進する。</p> <p>(2) ア・地域の行事や近隣の企業等のイベント等に積極的に参加し「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。</p> <p>イ・生徒と教職員による中学校・中学生への広報活動。 ・英語専門コースの生徒による、学校説明会や地域の小中学校を訪問してのプレゼン等により学校の魅力を伝え、生徒の自尊感情や自己有用感を育む。</p> <p>ウ・独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」となる。</p>	<p>(1) ア・イ ・自己診断（生徒）の学校行事及び部活動への満足度 85%以上 [H29:84.2%]</p> <p>・行事ごとに HP に情報を掲載。</p> <p>・1年生の入部率 70%を維持 [H29:70%]</p> <p>ウ・「部活動体験会」などを 1, 2 学期で 5 回以上実施 [H29:17 回] ・部活動交流に参加する中学生 500 名以上 [H28:532 人]</p> <p>(2) ア・地域の行事等への参加 (3 回以上) [H29:7 回]</p> <p>イ・中学校向け広報紙の発行と配布 (6 回以上) [H29:6 回] ・地域の学校での生徒によるプレゼンや広報を積極的に展開する。</p> <p>ウ・中学校訪問 60 校 (80 回) [H29:79 校]</p>	<p>(1) ア・イ 行事、部活動への満足度は 82.1%で昨年を 2 ポイント下回った。(△) 部活動の指針を踏まえ活動時間を制限したことの影響かもしれない。 ・行事に関する HP の更新回数 (修学旅行以外) 11 回 (○) ・1年生の入部率は 69.5%でほぼ目標を達成した。今後も部活動と学業の両立を図る。(○) ウ・中学生対象の「部活動体験会」を 1, 2 学期で 14 回実施。運動部だけではなく文化部も交流を行った。(◎) ・今年度参加の中学生は 527 名。中学への周知の方法や Web 受付など、申し込み方法を改善した。(◎)</p> <p>(2) ア・地域の施設での公演や文化祭への参加などなど回実施。本校のクラブ活動や生徒会の取り組みが認知された。(◎) イ・「津田校通信」を年 7 回発行し、学校最寄駅構内に掲示するなど学校の PR に努めた。(◎) ・地域の中学校が開催した英語フェスティバルに短期語学研修について生徒が作成した VTR レターを上映し、高い評価を受けた。中学生対象の学校説明会でもプレゼンをおこなった。(◎) ウ・中学校訪問は 65 校に対し 81 回実施し、情報提供に努めた。またその他管理職による中学校訪問も実施。(◎)</p>
--------------------------------------	---	--	--	---